紙芝居をつくろう　つくるときのポイント

＊どんな紙芝居をつくりたいか、はっきりさせて

見ている人をアッといわせる紙芝居、なみだをさそう紙芝居、ハラハラドキドキさせる紙芝居‥‥、紙芝居にはいろいろなものがあります。また、次のようなタイプにも分けられます。

・**参加型紙芝居**　なぞなぞ・あてっこ・うたなど、演じるあなたと見る人が会話をかわしながら　もりあげていくタイプ。これは４、５画面でも OK です。さいごにオチがすっきりきまると、ぐっとおもしろくなります。

・**ストーリー性のある紙芝居**　これにはあるていどの画面数が　ひつようになりますが、あなたのおもっていることが表現できます。ただし、あれもこれもよくばらず、いちばん表現したいことにしぼりましょう。

＊きゃく本を書く

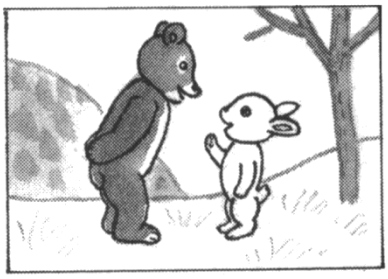
・あらすじをさいごまで簡単に書いてみてください。でてくる人は少ない方がすっきりします。
・あらすじをいくつかの場面にくぎって、それぞれの画面のイメージをおもいうかべてメモ用紙などにえがき、それにしたがってきゃく本を書くと、ことばもイキイキとしてきます。
・きゃく本は、説明（地の文）と会話（セリフ）でできていますが、紙芝居は“お芝居”なのでセリフを多くします。
・ストーリーのあるものは、「起承転結」をはっきりと。とくにハッとする　意外な展開をくわえましょう。

＊画面をえがく

・メモ用紙などにえがいた略画をもとに、がよう紙に下絵をえがいて、ためしに演じてみてください。きゃく本と絵が合わないときは、どちらかをなおします。
・本絵にとりかかりましょう。手づくり紙芝居は画面数や大きさも自由ですが、八つ切りがよう紙を使うと、図書館などにある紙芝居ぶたいに入れて演じることができます。

①主人公がひと目でわかるように色のくふうを

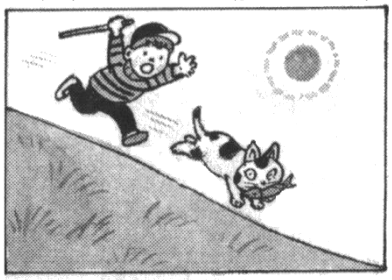
②遠くからでもはっきり見えるように。おもな人物はりんかくをとったり、背景との関係をくふうしよう



③背景はできるだけ省略すると、集中できる

④左にむかって動くように（下の絵は悪い例。画面をぬくとき、うしろ向きに動いてしまうから）

×



⑤遠くからながめるロング、人物の上半身だけ、顔だけのアップなど、変化のある画面をえがこう

水彩えのぐ、クレヨンなどで自由に。ただし、色えんぴつは遠目がききません。はり絵や切り絵もなかなか効果的です。

カット・久保雅勇

「心をつなぐ紙芝居」（童心社）より

＊演じてみよう

各画面のウラにきゃく本を書いてできあがり！演じてだれかに見てももらい、さいごの手直しをするといいでしょう。手づくり紙芝居は、作った人が演じますので、その生の声とともに思いも伝わり、見る人を感動させるものです。自分も画面を見ながら、かん客に語りかけるように演じてください。（久保雅勇／上地ちづ子）